

生まれ変わる水

台所風呂トイレの水（生活排水）はどこへ

お家の台所、トイレ、お風呂から出た生活排水は、スイスイくんと一緒に旅にでます。道中、大勢に出会うとポンプ場で一休み。ようやく和光の処理場に着いたら、ここで体を清潔にして新河岸川に放流され、広い荒川へと飛び立ちます。スイスイくんと一緒に旅にでてみましょう。



野菜くず、ご飯の残り、天ぷら油を流さないように気を付けて！特に油類は注意！

こまめに排水口をチェックしてね！ごみや髪の毛は詰まりのもと。シャンプー・リンスは適量を守りましょう。

トイレットペーパー以外は流さないでね！

タオルやパンツが流れることもあるんだって！



水道水を一人1日どのくらい使うの？

平成26年3月現在最大で317ℓ、25年度平均266ℓ（2ℓペットボトル133本分）。4人家族だと532本にもなるんだって！

下水道の整備はなぜ必要？



市民が清潔で快適な生活を送るため

汚れた水が溜まらず、蚊やハエなどの虫や悪臭が少なくなって、街が清潔に保たれているよ。トイレが水洗になることで家の中で嫌な臭いがなくなって、台所や風呂などの汚水も流せて、快適な生活が送れているんだね。

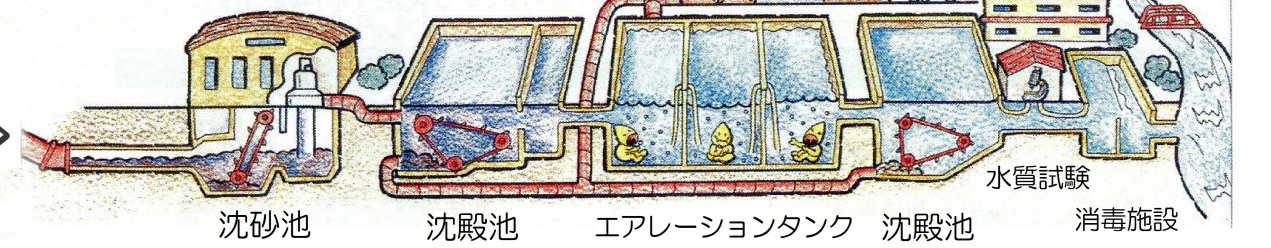
川や水路の水を昔のようにきれいにするため

洗濯の水がそのまま川に流され、真っ白な泡が川いっぱいになっていたときもあったね。今はあまり見かけなくなったのも、下水道のおかげ！また、大雨や集中豪雨からまちを守るため、降った雨をすばやく排除して、浸水から街を守っているんだね！

昔と比べると川がきれいになったなあ！

終末処理場（和光市）

公共下水道管で集められた汚水を処理して、きれいな水にかえるところです。



富士見市の公共下水道とは？

家庭や工場などから出された排水を、終末処理場へ送る配管などの設備のことであり、市町村、地方公共団体により建設されます。

荒川右岸流域下水道は、富士見市をはじめ近隣の10市、3町が共同で使用しています。市内各所から集められた下水は、水子にある新河岸川中継ポンプ場で汲み上げられ、和光市の終末処理場できれいな水に生まれ変わり、新河岸川に放流されます。

下水道使用料はどのように算出されるの？

富士見市の一般家庭の下水道使用料は使用した上水道料金の約7割程度が請求されているようですが、他の市町村では、上水道料金を上回ることもあるようです。

下水道使用料が高いなと感じたことがあると思いますが、それは公共下水道管の維持管理費用にかかるからです。また、埋設工事は埋設管の形状寸法により異なりますが、1メートルあたり5万円から30万円、マンホールも1か所に30万円から50万円を要するそうです。

徴収された下水道使用料は、主に埼玉県荒川右岸流域下水道へ納入する維持管理負担金や市下水道管渠の清掃、修繕といった維持管理事業に使われています。

富士見市の下水道整備はいつから？

富士見市では、昭和49年から、汚水と雨水を別々の管で流す分流式で整備が始まり、最初に使えるようになったのは昭和57年8月からです。平成26年度現在普及率は96パーセントに達しています。

平成27年6月号では「上水道について」の特集をしました。今月号では使った後の水（汚水）はどのように処理されるのか、料金はどのように決められるのか、市下水道課でお話を伺いました。

イラスト：萩原弘編集委員